

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	2871900334		
法人名	社会福祉法人 日の出福祉会		
事業所名	グループホーム ふたば		
所在地	兵庫県小野市二葉町80番123 (電話) 0794-70-0201		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年7月18日	評価確定日	平成20年8月13日

【情報提供票より】(平成20年 6月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成16年10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 3人, 非常勤 4人, 常勤換算	7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	(実費) 円	
敷 金	有(120,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(6月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	6	要介護 2	2		
要介護 3	1	要介護 4	0		
要介護 5	0	要支援 2	0		
年齢	平均 85.3 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	育が丘クリニック、森岡歯科医院、小野市民病院
---------	------------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

高齢者総合ケア福祉施設「ふたばの里」に併設の施設である。一步玄関を入ると、利用者の普段の生活や趣味が垣間見えるリビングでは、言いたいことを自分の言葉で言いあえる関係作りが利用者と職員の笑顔に繋がっている。居室は馴染みのある家具などで個性に応じた空間作りがされ、家族と過ごすことの出来る環境がある。各居室のドアを開けると隣の部屋と続く木製のベランダがあり、利用者が洗濯物を干す。又、そこに腰を下ろして交流の場ともなっている。ホーム長が力を入れている利用者の「生きる力」に焦点をあてたケアの実践で、利用者は1日の目標を持って過す事が出来ている。結果、開設から3年以上たっても活力に満ちた利用者の姿がそこにある。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	常に向上心を持って事業推進に取り組む姿勢に好感が持てる。前回の課題である「同業者との交流を通じた向上」に対して、他の同業者の相談や施設見学対応といった形で取り組みされている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価を職員で行う方法を取り、これから取り組むべき課題等を職員が認識できている。「思いや意向の把握」では、思いを自分の言葉で表出できない利用者にもセンター方式を活用しアセスメントされている。今後は、入居後の支援によりもたらされた良い結果を評価し、それを踏まえて、介護計画の見直し作業をされることを期待する。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	定期的に会議を催し、第三者評価の結果も会議にて公表されている。施設の運営状況及びケアの質は、市や地域からも高く評価されており、会議でも地域貢献を期待する声が見意としてあがっている。現在、市との連携で、リーダーとして同業者への認知症研修を実施する計画が進行中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	2ヶ月に1回家族会行事が実施され、利用者家族との信頼関係作りを継続して進めている。利用者アンケートからも現実の対応についての満足感はうかがえるが、現状がベストであるが故、介護の質の維持及び後継者の育成などの意見が家族からも直接、ホーム長に伝えられている。職員の仕事への志気の高さもあるので、今後、職員育成の職場研修体制作りを期待する。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	ホーム長は、毎年、地域で催される講演会に講師として参加を続けている。開設当初より、自治会から土地を借用し、作物作りを継続している。又、自治会行事(地域清掃や花祭り等)にも参加し、日々の散歩では地域住民とのコミュニケーションにも努めている。地域の住民が少ない環境でも地域密着型サービスとして出来ることを継続している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふたば憲章の中にある「ふれあいの場を地域に広げ、人と人のつながりの中で、安心と生きがいのある暮らしを楽しみます」が、地域密着型サービスとしての理念として、玄関横に掲げられている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月2回の会議では、理念の共有が繰り返されている。日々のサービスの提供場面で、理念を実践に結びつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館の草引きに6人の利用者が職員と共に参加され、地域活動に協力されていた。又、地域の行事に参加することは元より、散歩の途中、馴染みとなっている地域の人に野菜を頂いたりし、地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の課題である「同業者との交流を通じた向上」に対して、他の同業者の相談や施設見学対応といった形で取り組みをされている。市町にも同業者とのネットワークづくりの素案に参加してもらうこと等、協力体制がある。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市との連携でリーダーとして同業者への認知症研修を実施する計画が話合われたりしている。又、グループホームふたばに入居されたことにより、明るい笑顔を取り戻された利用者の姿が紹介されたりしている。		
6	9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同業者とのネットワークづくりや、行政から認知症の研修講師を依頼されるなど、市町と行き来する機会があり、モデルケースとしても期待されているため、サービスの質の向上に繋がっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、金銭管理報告や『ふたばだより』でホームの出来事をお知らせしている。入居者の健康状態については、定期的にお知らせすると共に随時に連絡を行っている。家族は家族会の活発な集まりでホームに来られる機会が多い為、利用者の様子はおのずと把握できている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が活発に運営されており、家族同士の繋がりも深い為、気安く意見が言い合える環境となっている。今まで不満、苦情の言葉はなく、現介護の質の維持や後継者の育成などの意見が家族から直接、管理者に伝えられている。		現状のケアのあり方に満足されている。ほとんどの家族の意見が後継者の育成である。管理者の強いリーダーシップは後輩職員が日々、見習っているとは思われるが、引き続き第二の管理者の育成に力を注がれ、家族の安心感に繋げてもらいたい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむをえずパート職員の退職があった時には、あえて利用者には伝えなかった。気軽にホームに出入りしていたため、入居者は気づかずダメージも防げていた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の研修計画に基づき、管理者は職員の段階に応じて、外部研修への参加を勧めている。先輩職員による認知症ケアの指導も仕事の中で自然に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の同業者の相談や施設見学対応といった形で取り組みをされている。他施設の催し・バザーに参加し、利用者の作品を出店できたことの影響が大きく、利用者の明日への活力源のひとつとなった。		行政よりネットワークの素案づくりに参加してくれる等の協力が得られている。順調に進行していくことを期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から収集した情報を把握し、本人が安心して馴染めるようにしている。又、入所当初の関わりがホームで生活する上で、特に重要だということを職員はよく理解し、力を入れた取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者には農家出身の方が多く、野菜づくりや保存食作りは利用者の力を発揮する場面である。一緒に生活する中から、職員は学ぶことが多く、笑い声の行きかう生活となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族のような関係で、言いたいことを自分の言葉で言いあえる関係となっている。思いを自分の言葉で表出できない利用者にはセンター方式を活用しアセスメントされている。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日常の記録と、カンファレンスでの意見が介護計画に反映されている。又、職員は本人、家族との日頃からの関わりから「どのように暮らしたいか」を理解しており、介護計画作成時に生かされている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>職員の継続した、利用者の力を発揮させる支援によって、ここ3年間、入居者の日常生活動作は悪化していない。かえってホームへの入居後は表情豊かに生活されている様子が伺えるが、良い方向への見直しの介護計画がなかった。</p>		<p>今後は、入居後の支援によりもたらされた良い結果を評価し、それを踏まえて、介護計画の見直し作業をされることを期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の要望により歯科、眼科、皮膚科等の専門医の受診の付き添いが柔軟に行われている。当日は、家族付き添いで歯科に出かけられていた利用者がおられた。又、医療連携体制がとれているクリニックが近隣にあるため、本人、家族には特に安心感がある。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居当初、かかりつけ医の受診を受けていた利用者も、本人、家族よりの申し出で医療連携のとれているクリニックに変更されているケースが多い。クリニックからは、日常的に指示がもらえたり、必要時には往診してもらっている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>昨年、ホームで終末期のケアと看取りを実践した経緯がある。その時のケアの在り方は他利用者や家族に満足と安心を抱かせるものであった。今後、万が一、重度化した利用者には、本人及び家族の意向を一番にクリニックと随時話し合い、進める体制となっている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者の誇りを損なわない場面として、排泄介助時を大切に考え、他者に気づかれない対応を行っている。当日もさりげなく、居室誘導を行い、排泄介助に至っていた。記録等の個人情報の取り扱いの指導も行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者それぞれの思うがままの生活支援が行われていると共に、利用者は1日の目標を持って過す事が出来ている。朝、目覚めると更衣に始まり、掃除機掛け、洗濯物干しと日課があり、入居者は意欲的にその日を過ごされている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当日は、家族と共に収穫したじゃがいもで作ったコロッケが食卓にのっていた。それぞれが食事前のできることを準備し、全員が後片付けと洗い物を行っていた。時には、計画もなく外食されることもあり、臨機応変に食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、本人の希望に応じた入浴ができる体制となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毛糸でたわしを編んでいる入居者や、ぞうり作りをしている人、歌の得意な人、料理の手伝いをしている人と役割、楽しみごとへの支援が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は自分の思いを自由に言い合える環境にあるため、戸外にも行きたい時に出かけられている。日常的な散歩、畑仕事のための外出、家族と共に一泊旅行が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は入居者の日課や状態を把握した上で玄関には鍵をかけないケアが行われている。当日も、入居者が老人車を押してホーム前を一人で散歩されていた。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	併設の特別養護老人ホームとの合同での訓練が4回/年行われている。防災マニュアルの確認や消火器による消化訓練等が内容となっており、職員の安心に繋がっている。運営推進会議でも地域への協力を打診している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	水分摂取の大切さを職員全員が認識し、残さず飲みきるよう日々勧めている。入居者全員、自力での摂取が出来、自分のペースでの食事が出来ている。朝食・昼食はホームで作り、夕食は併設施設から運ばれ、栄養バランスにも配慮されている。摂取量の記録と把握もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	日々、過ごされるリビングには大きな掃き出し窓があり、日当たり、開放感とも居心地良い空間となっている。廊下のいたるところに長椅子が置かれてあり、一人になりたい時や離れた場所から他入居者を見ながらくつろぎたい時に役に立っている。リビングや廊下の利用者手作りの作品が温かみを添えていた。		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居室は馴染みのある家具などで個性に応じた空間作りがされ、家族と過ごすことの出来る環境となっている。各居室のドアを開けると隣の部屋と続く木製のベランダがあり、利用者が洗濯物を干したり、そこに腰を下ろしての交流の場ともなっている。		

 は、重点項目。